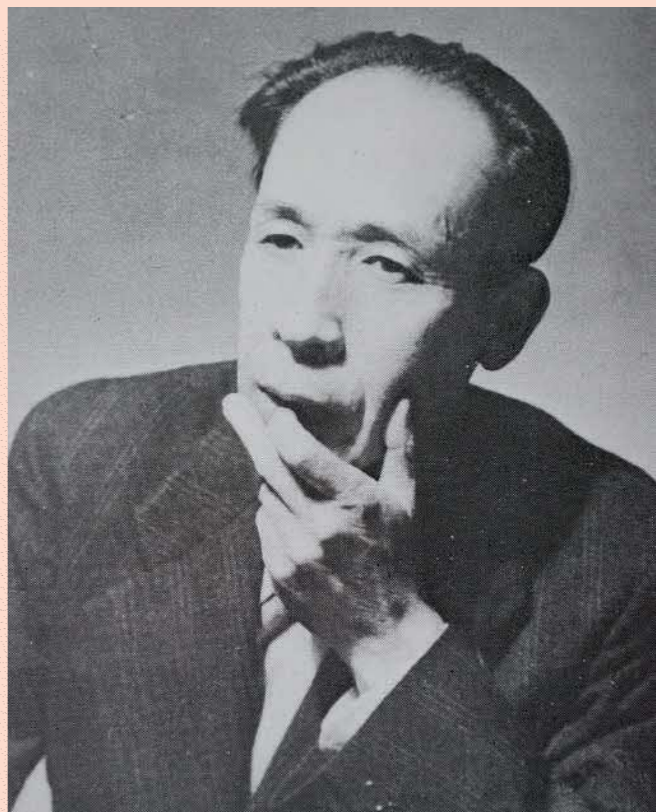


上田保

うえだ

たもつ



防府市
(1906～1973)

上田保は、昭和のシュールレアリスム理論の中心的人物として注目された文芸評論家、翻訳家。明治三十九年、現在の防府市大道に生まれた。昭和二年、兄の上田敏雄、北園克衛らとともに、わが国で最初の超現実主義運動機関誌となった詩誌『薔薇・魔術・學説』を創刊。翌二年、その第三号に、三人の連名で日本における初の自立的シュールレアリスム宣言を発表。その後も、評論、翻訳を精力的に発表し、雑誌『セルパン』・『新領土』の編集者として、海外文化情報や社会派詩人らの紹介・翻訳・批評を行った。昭和二十四年、母校慶應義塾大学の教授となり、エリオット翻訳の第一人者として活躍した。

(森川信夫)

【主な著作】

『概説世界文学』（創元社、昭和25年）

『エリオット詩集』上田保訳（白水社、昭和29年）

『どうだ ぼくらは生きぬいてきた！』

ロレンス作◇上田保・海野厚志訳（国文社、昭和35年）